



ガーラ湯沢にて

このスキー場はもう何度も来ている所で、地形はほぼ私の記憶にインプットされており、従って、新奇さが少なく飽きてきましたが、風景を見ながらゆっくり滑り降りるとか、いろんな滑り方を研究しています。例えば初心者用のゆるい斜面のコースをできるだけ直滑降する。

今回は沈む夕陽を受けた雪山を鑑賞しようと思いました。

運転終了時刻ぎりぎりに乗ったリフトで、山頂にゆき、湯沢高原に対峙する西日を受けてピンク色の雪山々を見回し、夕陽が沈むにつれ少しづつ陽を受けているところが頂のほうに縮んでゆき、赤みも薄らいでゆくのを時間をかけて眺めました。自分の居るところはもう陽が当たっていません。足元の雪は硬くなり始めています。

名残惜しそうに山頂にたたずんでいたスノーボーダーやスキーヤーたちは少しずつ減っていき、ついにあたりにゲレンデスタッフしか居なくなると、私は、少しずつ下ってゆきます。

途中でストップして、また血の気のなくなりかけた瀕死の白い山々の横顔を見ます。そしてついに臨終のときがせまります・・・。

ゲレンデスタッフが客がみな下ったことを確かめるためコースをしらみつぶしに降りてきます。雪山はついに血色を失い、色の薄くなった空の青さと雪の白さのみが残ります。スタッフがどうかしましたかと上からたずねます。

「いえなんでもないんです」というジェスチャーをして私はゴンドラ乗り場のほうに下っていききました。